

第18回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録

I 日時

令和6年（2024年）3月11日(月) 10:00～11:50

II 場所

中山台コミュニティセンター 多目的ホール

III 次第

1 開会

2 委員紹介と座長・副座長の選任

3 議題

中山台小学校の現状について

4 報告

(1)通学区域の弾力的運用について

(2)長尾幼稚園への通園手段について

5 その他

6 閉会

IV 議事録

(事務局)

それでは、第18回中山台地区教育環境適正化検討委員会を開催させていただきます。本日はご多忙中にも関わらず、会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

それでは開会にあたり、教育委員会管理部長からご挨拶申し上げます。

～挨拶～

それでは、ただいまからの進行を、座長をお願いいたします。

～座長挨拶～

(座長)

それでは、議事に入ります。

「(1)中山台小学校の現状について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは中山台小学校の現状について報告します。

本日は令和4年4月に学校統合して、2年が経過しようとしています。その2年目の振り返りを学校からしていただきたいと思っています。ただ、その前に事務局から報告事項があります。

前回の第17回中山台地区教育環境適正化検討委員会で議論いただいた統合加配及びス

クールカウンセラーについて、最低3年間は継続して欲しいという要望をいただいていたが、市の事情もあり、3年目の配置が出来ない状況になりました。そんな中で3年目の学校運営にはなりますが、本日は学校側から2年目の学校の様子について、報告いただけたらと思います。よろしくお願いします。

(委員)

1年前、この場で皆さんに反省をしていただきました。昨年度は、無我夢中の1年で、4月、教員達は気が付いたら夜の9時になっていたというお話をさせていただきました。PTAからいただいた反省の中にも2つの学校が1つになり、違う文化が1つになるということで、軋轢があったのが1年目でした。中山五月台小学校の子ども達は小さなグループから大きいところに各クラス3人、4人で中に入って、ストレスの大きさもありましたし、保護者同士も新しい環境の中で、適応していくのは大変だと感じていました。

学校運営も中山桜台小学校をベースにするということで、前年度の夏休みに全ての事を決めておいて、それに基づいて、何とか運営をしてきたのが1年目でした。初年度には不登校気味の子が仕切り直して、元気に学校に来られるようになったケースもありましたが、環境の大きな変化によって、ストレスを抱えている子どもや保護者の方もいました。そういう方たちの大きな助けになったのが、統合校として、市で特別に配置していただいたスクールカウンセラーです。

県からは統合加配として、2名の教員をいただき、市からも加配教員をいただき、子ども達の課題に寄り添うことができたので、大きな混乱も無く、子ども達がクラスに入れなくなってしまうことを防ぎながら、過ごすことが出来ました。それを踏まえて、昨年度のこの会議において、統合は1年で終わるわけでは無いので、最低3年間の手厚い配慮をしていただきたいとまとめました。

統合初年度は、職員にも余裕が無く、昨年度に決めたことに従いやっていきしかありませんでしたが、2年目を迎えて、みんなで新しい中山台小学校としてやっていこう、伝統を作っていこうということを職員で話し合いました。PTAの皆さんも様々な改革をされ、学校にも寄り添っていただき、一緒に学校を作っていきましょうという気持ちで2年目のスタートをさせていただきました。

今年度の学校運営については、中山五月台中学校区コミュニティスクールの学校運営協議会で反省をしましたので、それを基に話をさせていただきます。

まず、新しい学校行事のあり方として、色々な事を考えながらやってきました。コロナ禍も少しずつ明けてきましたので、修学旅行で広島に行くこともでき、自然学校は4泊5日で行っていました。今まではコロナ禍で日帰りや2泊3日でやっていましたが、今年度から4泊5日ですることが出来ました。また、運動会をどうしていこうかと考えた時に、昨年度までは人数制限をしていましたが、2部に分けて参加の制限は無しにして、みんなに来ていただこうということでさせていただきました。

開会式と閉校式は一同を介して、PTAの皆さんと相談して、様々な対応をさせていただ

きました。

音楽会は3部制にして、出来る限り、皆さんに来てもらえるようにしました。座席は1家庭に2つしか用意できませんでしたが、皆さんの協力もあり実施することが出来ました。PTAと事前に相談して、個人撮影を無くし、DVDを販売することにしました。そして、子ども達の発表の応援をして欲しいということを協議させていただき、賛同もいただいた中で、音楽会を実施しました。

オープンスクールも地域や学年の指定も無くす等、来ていただけるようにして、新しいやり方で学校行事を築きながら進んできました。

統合前に結成していただいた学校応援団は中山台小学校の大きな特徴になっています。地域の皆さんが学校の応援で様々な支援をいただいています。2年目は、保護者の方にも学校応援団に登録していただき、昨年度以上に学校へ来てもらうことが出来ました。

例えば、入学したばかりの1年生が教室に行っても何をしたら良いのか分からない状態でしたが、各クラスに学校応援団の方に入ってもらい、子ども達のケアや給食の準備のお手伝いをしていただいたり、2年生の九九を唱えるチェックをしていただいたり、活躍していただいています。地域や保護者の方々に入ってもらい、みんなで作っていく学校として進んでいったかなと思っています。統合という大きな環境の変化を迎えた学校なので、みんなで対処していこうと、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等のスペシャリストの方と連携して、子ども達のケアに当たっています。

スクールカウンセラーは市で特別に配置していただきました。元中山五月台小学校の児童や保護者の方が継続的に利用して安心される方は多かったです。スクールカウンセラーが無くなってしまったということで、その引継ぎをやっているところです。また学校では心を落ち着かせるためにマインドフルネスに取り組んでいます。毎週2回の朝の時間に子ども達が呼吸を整え、色々な事をしながら自分と向き合い、心を落ち着かせて学習に取り組めるように、関西学院大学の教授にご指導いただきながら、取り組んでいるところです。統合という大きな節目を迎えていましたので、統合前より取組を継続させていただいています。

また、読書活動では、読書活動を推進して下さるさくら文庫というボランティアの方々充実した読み聞かせをしてくださっています。こうした活動が定着していて、図書館司書の工夫もあり、読書環境を整えて、子ども達が読書に向かうことが出来ています。そこはさらに充実を図りたいと思います。

また、情報教育でもタブレットの活用は市内でも盛んであるという評価をいただいています。子ども達はタブレットを使いながら調べ学習をしたり、ドリルの復習をしたりしています。昨今、問題になっている情報モラルについて、毎月動画を見て、学習しています。今年は保護者の方にも知っていただきたいという思いから、オープンスクールで情報モラルの講座と一緒に受講いただき、取組を進めています。100名以上の保護者に子ども達と一緒に学んでいただき、取組を進めさせていただきました。

また、環境教育では、中山五月台小学校に里山があり、それを大切にさせていただきたいと

いうことを統合の会議ではご意見をいただいていたました。低学年の児童は収穫等を楽しみ、今週もジャガイモを植えに行きます。そういったことで、里山では、ボランティアの「すけっとさん」にお世話になっていますし、PTAの皆さんにもお手伝いをいただいているところです。ただ、往復に3時間以上かかるので、高学年になりますと、授業時数の調整が難しいところもあります。5年生は稲作を里山でやっていましたが、今年は本校の中庭で行い、「すけっとさん」に応援をいただきました。中山台小学校の裏山のゆうゆうの森を使うことも、今後考えていきたいと思えます。旧中山五月台小学校をいつまで使っていくかは市で検討することだと思えますので、その話を受けながら今後は考えていきたいと思えます。

また、小中連携について、中学校が積極的に関わってくださっているので、色々な連携が図れています。今後もこの連携を進めていきたいと思っています。

色々な加配をいただいていたましたので、音楽と図工の専科に加え、高学年の算数の専科や5年生は算数を少人数グループに分かれて学習しています。中学年の理科専科への加配もついていますので、市費の統合加配は低学年の図工を担当していました。それぞれの子も達をより細やかに見ることが出来るのは本当にありがたいことでした。今は全学年3学級で18クラス、特別支援学級が5クラスありますので、23学級になっていましたので、専科の教員が中山桜台小学校と比較して1名増えていました。来年度は1年生が2学級になるということで、統合3年目で学級数が減ってしまうこととなります。そうなりますと、県の規定によって、専科教員は23学級から付きますので、1人の専科教員が減ってしまい、市費の加配も無くなってしまいます。県の加配について、1年目は2人で、2年目は1人になります。3年目は児童生徒支援加配のみになります。無くなっていく事は当然ですが、学級減に伴う減と市費加配の減とスクールカウンセラーもいなくなるということで、厳しい状況になります。3年くらいは安定した形で運営できたら、基盤ができるかなと思っていますので、そういうところをお願いしてききましたが、市の状況が厳しいということで、配置が出来ないとのことでした。

(座長)

何か質問はございませんか。

(委員)

統合は新設より大変な作業だと思います。先ほどの説明で加配の配置予定が3年から2年になったのは市の分だけですか。

(委員)

そうですね。県は元々、減っていくのは決まっていたました。市で配置していただいていたスクールカウンセラーと統合加配が無くなります。

(委員)

スクールカウンセラーは統合しなくても相談はあるかと思いますが、統合による事例は何件くらいありますか。統合以外にも家庭の事情や友人関係等があるかと思いますが。

(委員)

子どもや保護者の不安は統合だけに関わるものではないですが、統合前から大きなグループに入るの、すごく大きな変化でした。スクールカウンセラーは週に1日しかいませんが、朝の9時から16時まで予約が埋まっている状態です。継続してお話をされている方もたくさんいます。大きな行事をした時にずいぶん違う印象を持たれます。小さいところで活動していた子ども達が大きなグループに入って、疲れてしまう子ども達や後半になってしんどくなってきた児童もいます。

(座長)

それは低学年だけですか。

(委員)

高学年の児童にもいます。

(委員)

スクールカウンセラー以外に減るものはありますか。子どもに影響するものが減ってしまうのは。

(事務局)

令和5年度と比較すれば、スクールカウンセラーと市費で配置された統合加配になりません。

(委員)

保護者として、スクールカウンセラーは継続して欲しい。

(事務局)

中山台小学校にスクールカウンセラーとして、配置されていましたが、拠点校が別にあり、そこに組み込まれるようになりますので、中山台小学校に来てもらえる頻度が少なくなります。

(委員)

拠点校に私たちが行くような感じですか。

(委員)

中山五月台中学校になると思いますが、現在は週に1回スクールカウンセラーの方が来られて、生徒や保護者のカウンセリングをしています。カウンセリングの際は小学校に出向いて行うことになると思います。仕組み的には中学校に拠点を置き、小学校からカウンセリング希望を受け付けて、週に1回の勤務の中で調整することになると思います。運用的にはタイトになるかと思います。

(事務局)

教育委員会では、教育支援課等が教育相談も受け付けています。

(委員)

統合することをネガティブに考える場合とポジティブに考える場合がありますが、今回の中山台小学校の統合にはどういうビジョンを持たれていますか。こういう学校にしているというのがありますか。

なぜ、このようなことを聞くのかというと、この地域も間違いなく少子化になっていますから、少子化を受け入れていくのか、それとも少子化を何とか防ぐアクションを取るのか、学校として方向性があるのかを聞きたいです。

(委員)

少子化に対する対策になると、市になります。

(委員)

そうではなくて、少子化の中であっても、田舎でも統合して、それまでとは全く違うカルチャーにしようとしている学校もあります。今の説明では、2つのものを1つにしようと思いましたが、統合したらこういうものに仕上げたいこうというビジョンが欲しいと思います。そのあたりはまだ無いのか、それともこれから作られていくのですか。

(委員)

新しい学校になりましたので、学校教育目標等を作り直ししていただいて、出発しています。学校目標も自分も人を大切に新たな道を切り拓く中山台っ子の育成としています。先ほど、申し上げた通り、地域に愛されるというのは大切なビジョンになっています。学校応援団にしても、統合前から立ち上げていただき、地域の皆さんにも誇りに思っただけの学校にしていこうということで、取組を進めてきたところです。2つの学校が1つになって、全く新しいものにするのはなかなか出来ませんでしたので、中山桜台小学校がベースになりますが、新しい学校として、一緒にやっっていこうということで、校章をみんなで公募しようとか、みんなで作り上げる気持ちを作り、統合に進んできたと思います。

(委員)

先ほど、ご質問もあった特色のある学校づくりということで話を聞いていました。学校は勉強や教育機関になるので、地域の事を考えて、運営をされるというわけではなく、教育機関として、子ども達のことを教育していく組織だと捉えています。それで、ここの少子化も進んでいって、小中一貫教育のお話が進んでいく中で、今の中山台小学校の特色は何かと考えた時に、先ほどの話にも挙がっていた学校応援団です。

私は統合前から関わらせていただいて、会議にも参加させていただいていたので、いろいろ話を伺う機会が多かったが、中山桜台小学校と中山五月台小学校は同じ小学校ですが、全然違う運営体制でした。だから、統合した時は大変でしたし、保護者や子どもも全く違う進め方の中で、どう受け止めて、どのように考えて、どう進めていけば良いかというので、しんどくなってしまふ部分があったという話を聞いています。学校応援団という制度は統合前の両校にありましたが、学校応援団を中心として担っただけのリーダーが中山桜台小学校にはいませんでしたが、中山五月台小学校にはいましたので、その方を中心に中山台小学校の新しい文化として、学校を支えてくださる地域や保護者の方々を含めて、文化を作っていくということで、学校応援団を組織化しました。これは、宝塚市内の他の学校を見ても、ここまで組織化して動いている学校は無く、この学校だけだと思います。それは会長が出席する宝P協に聞いても、この学校だけだと言われます。それくらい自慢の出来る特色

だと思えます。

先ほど、申し上げましたさくら文庫さんやベルマークさん、園芸ボランティアさんや里山を支えてくださっている「すけっとさん」や登下校時に見守りをしてくださる補導委員の方など、たくさんの方に支えてもらい、子ども達はすくすくと成長している状況です。この文化は宝塚市内の他の学校を見ても無いので、大事に育てていけたら保護者としても良いと思えます。

また、スクールカウンセラーの話になりますが、週に1回は中学校に来てらっしゃるということで、それを継続して使いたい方は使えるということで良いですか。先ほど、1日を通して予約が入っている状況と聞いており、週に1回だけ来られるスクールカウンセラーの方では、対応が厳しいのではないかと思います。市の状況が厳しいというのは分かりますが、それと子ども達の事とどっちが大切なのかと勝手に思います。中学校のスクールカウンセラーの方にやってもらえるのはありがたいことですが、週に1回の回数を増やしていただくとか、もう少し配慮があってもありがたいと思います。

(委員)

そもそも教育環境適正化検討委員会という会議は子ども達の教育環境を整えましょうという会議で、忙しい中、皆さんが日程調整して、集まってくださった会議です。そこで出た要望は何をさて置いてもとは言えませんが、出来る限り叶えていただけるものと思って、我々は活動してきました。今回も加配が無くなりそうということで、要望もさせていただきました。その結果が出来ませんでは、どうなのかなと思います。これからこの町のことを真剣に考え、地域が一丸となって、支えていこうとするには、地域が出来ることはマンパワーしかないです。そのマンパワーでは補えないところを市がフォローして下さってこそその地域挙げての協働のまちづくりだと思いますので、今回はできませんでしたでは終わらせず、しっかりとそこにお金を充てていただきたいと思います。

(委員)

市内に12の中学校があると思いますが、来年度予算は決まっています、厳しいと思いますが、これだけの相談件数があるって、朝から夕方までスクールカウンセラーの日程が埋まるくらいということで、中学校に1人ということで勤務日数が週に2日になれば、小学校が1日で中学校が1日になりますが、12の中学校の中でも数値は低いんですか。

中学校区で考えた時に勤務日数や人員を増やす際に優先順位を考えるとと思いますが、4月以降の予算は決まっているので、次の年には是非検討して欲しいと思います。また、数値があれば教えて欲しいです。

(事務局)

各校の相談件数等は手元にはありませんが、スクールカウンセラーの件数について、各校で一定のニーズがありますので、中学校だけで足りるのかという問題があります。スクールカウンセラーは県の事業になりますので、そこに市が上乗せして配置ができるかが問題になりますが、中山台小学校については手厚いサポートが必要ということで、市で追加の予算

を付けて配置していた経過があります。今回は市の予算で配置ができないことにはなりませんが、配置できないから何もしないわけではありません。その中でどういう対応ができるのかを学校や教育支援課と連携して教育委員会として対応していきたいと思います。

(委員)

先ほど、教育支援課等と相談しながらということでしたが、学校は余裕も無く、PTAも大混乱でした。2年目に落ち着いたかということ、先生方も頑張っ、新しい文化を作ろうと、色々な事を考えながら、進めてくださっています。しかし、落ち着いているわけではありません。それを学校に任せるとするのは違うと思います。先生は大変で、それを私たちは見えています。それを軽々しく言わないで欲しいし、統合して初めてのことだと思います。もっと大事にして欲しいと思います。市も予算が無くて、大変な状況だと思いますが、どこに予算を配分するべきなのか、もう少し考えてもらっても良いのではないですか。

おかしくないですか。

(事務局)

前回の委員会からスクールカウンセラーと市費加配について、何としてもという話をいただき、12月にも要望を受けていますので、予算要求する際、学校の現状を聞きながら、把握しています。学校任せというわけではなく、要求する際も学校から、しっかりとヒアリングした上で要求をさせていただいています。結果的にはこちらの調整不足もあり、予算がつかみませんでした。今のこの中で学校支援をしていけることを教育委員会で考えていけないといけないと思っています。ただ、令和6年度の予算は決定していますので、配置するのは厳しいところがあります。

(委員)

それでは、逆に何が出来るんですか。どういうことが出来るんですか。出来ることを教えてください。

(事務局)

大きなところで話をすると、加配の必要性が統合に起因するものと、通常の学校運営に起因するものなのか、3年間で問題が解決するのか、それと長期的に解決しないといけないものの整理が一定で必要だと考えています。

もし、それが長期的に解決しないといけないものであれば、教育委員会として長期的にそれぞれの学校の問題として、どう対応していくかというプランがもう少しはっきりと構築されるべきではないかということです。

そこに着目した時、普通、学校は国や県の費用を持って教職員が配置されています。一部では市で配置しています。例えば、介助員や今回のように特殊的なスクールカウンセラーになります。人口規模が倍以上の尼崎市や西宮市とその金額が同額です。また、川西市や伊丹市の倍以上の額を捻出している状況で、そうした多くの人件費の中で、教育委員会の中で捻出して配置をして欲しいと言われてしています。そこで、削れるところはないのか、過剰に配置されているところを見直していく中で、中山台小学校に回すことができたら良いなという

ことで人件費の精査をしているのが1つと、教育総合センター内にある教育支援課で、スクールカウンセラーと同じ臨床心理士の資格を持った教育相談を主な事業として取り組んでいる集団があります。その業務を整理することで、中山台小学校であったり、その他の学校であったりと、広くサポートできないか調整しているところです。

また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの専門職に加えて、スクールロイヤーの3つの専門職を上手く活用して学校に支援ができないかを研究しているところです。このスクールロイヤーは市で雇用しているため、必要な学校の対応ができます。

スクールカウンセラーは県が基本的には中学校を拠点校として配置しており、小学校を連携校としています。市で雇用して、各学校に行き、相談することが出来ないか、スクールソーシャルワーカーも各学校に配置していますが、教育委員会に配置することによって、困っている学校があれば、そこに重点的に配置するようなことも併せて検討しています。

この学校を支援する教師以外の専門職について、あらゆる角度から必要に応じて、各学校に配置できるような方法も検討しています。大きな人件費の中で中山台小学校にスポットを当てることできないか、教育委員会にそのような専門職員を配置して、必要な学校に重点的に入っていくような2つの方向性から中山台小学校へ手立てを講じることができるかを考えていきたいと思えます。

全く違う視点になりますが、私自身が学校統合に最初から関わっていく中でこうしておけば良かったという点があります。学校統合というプランを作りました。学校統合すると経済的な効果が生れます。市は大きい額ではありませんが、多くは教職員が減ることによって、県や国にとってメリットがありますが、そのメリットも含めた計画で財政効果も活用した学校統合をすることが目標ではなく、その後の教育環境の整備を含めた計画を市や県に提示しておけば、それを含めた計画であれば、途中で人が無くなるとか、配置されない等が無くなるかなと思えます。今回の中山台小学校での経験がこれからの宝塚市の今後の学校運営について、その後の経過も含めて計画の中に入れてしまうことが必要だと思っています。

先ほど、少子化というお話もありましたが、少子化に合わせて人口が減少していくことと、超高齢社会に入り、2040年には就労人口と65歳以上の人口が宝塚市において、1対1になります。1人の労働者が1人の高齢者を支える時代がもうすぐ先に来ますので、それに向けた体力づくりや町のづくりも変えていかないとはいけません。また、学校施設も大きなウエイトを占めていますので、何らかの対策が必要になってきます。そういう対策を講じる時にその先も見据えた計画を作っていきたいと思えます。スクールカウンセラーが配置できない状況ですが、人件費の裁量を持って予算を回したり、教育支援課の対応等で具体的な事を考えていきたいと思えます。年度途中になるかもしれませんが、検討を進めていきたいと思えます。

(委員)

その見通しはいつくらいに立つものですか。

(事務局)

具体的な方針や計画はありませんが、今、人件費の見直しを行っておりまして、近いうちに各課にヒアリングを行っていく予定です。そこでどれだけ捻出することができるのか、そして、捻出された費用から人を雇用することができるのかを確認していきます。各課の状況によりますので、時間を申し上げることはできませんが、予算を捻出することを目的にヒアリングを行います。同時にそれを待っているのは遅いので、教育支援課の方に臨床心理士がいます。教育相談になりますので、来てもらうことが大前提になりますが、中山台小学校に月に1回でも来ることが出来ないかを含めて教育支援課と調整していきたいと思っています。これは4月から始まることだと思いますが、4月中の配置は難しくても、5月以降からでも配置ができないかどうか検討していきたいと思っています。

(委員)

そういった内容は保護者に対して、どのように周知していただけますか。

(事務局)

学校長か教育委員会の名義になるかは分かりませんが、もし、それが実現できるのであれば学校を通じてアナウンスさせていただきます。

(委員)

分かりました。スクールカウンセラーは減るわけなので、学校にいないという周知も必要になりますよね。

(委員)

学校だよりでスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーについての相談日を記載して4月にお送りしています。今年はスクールカウンセラーについて、中学校の相談日が入ることになると思います。

(委員)

先ほど、市の計画の中で反省点の話をされていましたが、校舎の改修も是非計画に含めていただけたらと思います。

(事務局)

もちろん。それも含めさせていただきます。

(委員)

全ての費用を含めてということですね。

(事務局)

そうです。

(座長)

計画や検討事項について、着々と実行されているかをチェックすると言ったらおかしいかもしれませんが、4月や5月になれば、何らかの物が出てくる感じですか。

(事務局)

先ほどのスクールカウンセラーについて、皆さんの心情にも関わることなので、なるべく

早くに対応していきたいと思います。それ以外の校舎改修等への対応は難しい状況がありますので、すぐに答えを出すのは困難な状況です。

(委員)

先ほど、話のありました改修のお金を計画に盛り込んでいなかったため、統合で改修ができませんでした。中山桜台小学校を使っているのに、古くからの校舎で色々なところで改修が必要でしたが、改修できていません。だから、次の時にはそこも盛り込んでいただきたいし、今、児童が使われているなかやまホールの絨毯も替えてもらっていません。

分かっていたことも出来ていないのが現状です。だから、現状困っています。

(委員)

統合の時は中山台コミュニティの会長をやっていて、会議に出っていたので、詳細は分かっていましたが、ここ2年間は青少年の会議等が出ていないので、その辺の状況も疎くなりましたので、的外れかもしれませんが、パトロールの関係で子ども達をずっと見えています。この2年間で元気になったというか、目つきも変わってきたと思っています。特に桜台の通りは、桜台2丁目というバス停があって大きな道を使って児童が帰ってくるということで、目立つ場所に大人数の児童が通学で利用されており、その中でも坂が多く、こけたりして怪我をするケースもありました。当時はコロナ禍でもあったので、中山ちどりで小休憩ということとでトイレや水休憩もやっていましたが、しばらくできませんでした。それが1年前から戻ってきて、通常の通学になりました。子ども達を見ているとなぜそんなに元気なのかと思うことがありますが、統合して1年、2年経って子どもの気持ちが落ち着いているのではないかという感想を持ちました。学校統合後になって、気持ちが安定してきているのかなと思います。それには当然、校長先生やPTAの方もご尽力されて、そういう風に持っていていただいていると思います。次は3年目になりますが、統合して良かったと中山台地区の全体で持っていければ良いかなと考えています。特に少子化や高齢化ということで、パトロールしている人間も高齢化になりまして、人数が減っています。ただ、子どもの声を聴くことで元気を貰っています。この地区の盛り上げができるのではないかと思いますので、これからは統合について、皆さんのお力をお借りして、中山台全体を盛り上げていければ良いと思っています。

(座長)

それでは、中山台小学校の現状についての議題は終わりにします。今、多くの要望が挙がってきました。それが実現されていないものもあります。できたら本日の議事録はしっかりと取っていただき、この議事録を見ながら実現できていない要望については1日も早く実現することを望みます。それでは次の議題に移ります。その他事項について、何かございますか。

(事務局)

本日は特にございませんので、次に移らせていただきたいと思います。

(座長)

それでは報告についてお願いします。

(事務局)

通学区域の弾力的運用について、山手台中学校区にお住まいの方が中山五月台中学校に就学を希望されている方の希望者について、令和5年度の入学希望者は13名に対して、令和6年度の入学希望者は5名になります。

報告事項の2つ目について、中山五月台幼稚園の閉園に伴う長尾幼稚園への通園手段について、教育委員会では支援策を2つ講じています。1つ目が阪急バスの定期代の補助で2つ目が長尾小学校に隣接された旧長尾幼稚園の跡地を駐車スペースとして開放しています。事業の実施期間につきましては令和2年4月1日から令和7年3月31日までです。

令和5年度の利用者は合計14名の方にご利用いただきまして、内訳は阪急バスの定期代の補助利用者が3名と駐車スペースの利用者が11名になります。令和6年度は新たに6名の方が利用されまして、今年度に卒園される方は7名いますので、令和6年度の利用者は13名の予定になっています。報告は以上です。

(座長)

何か質問等がございますか。

～無し～

それでは次のその他事項についてお願いします。

(事務局)

今の説明で、通学区域の弾力的運用を利用して、中山五月台中学校に行かれている人数が5名ではありません。去年も13名の希望者はいますので、20人程度はこちらの制度を使って中山五月台中学校に通学されていることになります。

学校統合を進めていく過程で、ある程度落ち着くまでは避けて欲しいと言われていた小中一貫教育についてですが、議会の方からもう少し早く検討を進めてはどうかという声もあります。たしかに、中山台地区に限らず、社会全体の中でその必要性が増してきていると言われていています。例えば、不登校について、多くなる時期が中学1年生からだと言われてきました。それを裏付けるように中1ギャップという言葉も出てきていましたが、今はそうではなく、小学校5年生から非常に多くなっていて、市全体で見た時に同様の傾向が出てきています。それから色々な事象が発生するのが、5年生あたりからというのが出てきています。今の6年間と3年間という小中学校の区切りの中で、教育を進めていく上での課題について、研究が進んでいる自治体もあります。今後、議題として、積極的に進めていくことまではいかないにしても、教育委員会の方から次回以降の会議で報告させていただくことで、研究を進めていくという段階からでも入っていくのはいかがでしょうか。

また、中山台地区教育環境適正化検討委員会が1年に1回ということでは議論の機会も少ないので、もう少し頻度的には増えてくると思っています。いわゆる義務教育学校についての研究を含めた今後の議題とすることにしたいと思っています。

(座長)

研究はこの構成でやるということですか。

(事務局)

この中での意見交換を含めて、少しずつお話ができればと思います。中山台地区におけることなので、当然この中での議論になります。

(座長)

新しい組織を作ったりするわけではないですよ。

(事務局)

この委員会の中で議論いただきます。そこで議論をする中で新しい組織を作った方が良いということであれば、新しい組織の検討も必要だと思っています。

(座長)

もう少し頻度を高めて実施していきたいということですね。

(事務局)

はい。そうです。

(委員)

小中一貫教育についての質問で良かったですか。

(委員)

まず、話し合いのテーブルが中山台地区教育環境適正化検討委員会というのは分かります。それが最適だと思いますが、そのメンバーについて、今回の第18回の適正化検討委員会が令和5年度の1回目ですよ。ただ、もう少しすれば、どの団体も令和6年度の体制に5月や6月で入ると思います。そのメンバーがどうなるかということもありますので、そのあたりもどういう風に考えていけば良いかということからの適正化検討委員会になるかと思いますが、メンバーが変わって議論の積み上げが出来ないというのであれば、引き続き、今年度のメンバーでお願いしますとするのか、新たに令和6年度に就任された方からのスタートにするのか、その辺もPTAは入れ替えがあると思いますので、どう思っているかをお聞きしたいと思います。

(委員)

どれくらいの頻度でこういった内容でされるか分からないので、何とも言えない部分はありますが、私は今年で卒業するのでいません。今回、統合した際も保護者の中から選任するということだったので、保護者でないとPTAとして、この会議には出席できません。なので、基本的には保護者の役をしている方がメインになってくると思います。ただ、PTAは1年単位で変わるので、ころころ変わるのがということであれば、PTAが出ること自体が適さないのかなと思ってしまいます。それでも、保護者の意見は必要になると思いますので、そこをどう考えていくのか、それこそ、枠を外して、過去に参加したことのある方は来てくださいますか、色々考えることはあるのかなと思いました。

(座長)

自治会から出てくるメンバーも変わりますから、そこから検討していかないと難しいと

思います。少なくとも5月以降にメンバーの話から入らないと進まないと思います。そこで、
どういう人たちを選んでいくか、そこで話し合っただけで進めていかないといけないですね。

(事務局)

本日、何か具体的な結論というのではなく、今後話し合っただけでいこうということ、
次回以降になります。その次回というのは年度が変わって新しい体制になってからだと思
いますので、その中で具体的なテーマを挙げて、時期やゴールの形態は決めない中でお話
出来る環境を1回目に提案して、具体的な内容はその次回以降になってくるとは思います。
新しい体制の中で提案をいただけたらと思います。

(委員)

前回の統合の時の反省が活かされていないと思います。もう少し反省を活かして考えて
欲しいです。

(委員)

まず、小中一貫教育について、そちらの方を向いていこうということは、いつ目指
してというわけではなく、義務教育学校の勉強から始めようということであれば、私は
構わないと思います。ただ、そこに参加される方がどういうメンバーでというのは、それぞ
れの所属される団体の中でご検討いただいた方が良いと思います。例えば、PTAの方は統
合の時も結果的に、私が中山台地区教育環境適正化検討委員会の座長になった時は、常任評
議委員長という自治会長のまとめ役みたいな感じだったので、ここの席に座ってしまっ
たが、役職が変わっていき、メンバーも変わると、話がーからになってしまうので、そのま
ま役職を外して、その人にテーブルに座ってもらおうということ、そのようなメンバーにな
ったと思いますので、そういうやり方で組織をするのかどうかというのも、それぞれの団体
で話し合ってもらった方が良いのかなという気もします。自治会にしても1年交代で変わ
るときがあるので、そのあたりも継続して、出てこられる方ということで、人選をされる
のであれば、その方が継続して出てきてくだされば良いと思います。そういうメンバー更新に
した方が築き上げる意見がきちんと出せるのではないかと感じたりもします。そのこと
について、今、参加されている皆さんはどのように感じられるのかなと思います。

(座長)

保護者の代表となればPTAの会長になるので、会長では無くなったら、保護者代表にな
らなくなりますよね。それで良いのかなという問題ですよ。継続性を持たないと新しい
PTAでは分からないので良いのかという問題も含めて考えていかないといけないですね。

(委員)

統合の時には継続して出られる人をなるべく選出した方が良くということ、PTA内で
違う組織を作りました。来年度になると思いますが、そういう組織を立ち上げないといけ
ないのか、その必要性はどれくらいなのか、頻度はどれくらいで、何名の選出が必要になる
のか、OBからの選出をしても良いのか等の色々な課題があります。そこをまず整理されて、
ルールを決めて、見通しを持った運営をされた方が良く、私たちも仕事をしながら出る

わけですから、今回のように直前にいただいても、仕事が調整できないと出られないので、見通しを持った計画をお願いしたいです。それと、メンバー選定に当たるルールだけでも決めていただくとか、まず、話し合ってもらわないといけないことがあると思います。

(事務局)

今日、何かを決めようということではなく、次回にこんな議論が出来て、メンバー選出をどうしていくのかということも考えられたらと思います。

(委員)

新しい方がそれを分かるかどうかですが、分からないと思います。今まで経験してきた事が無い方が来て、それを聞かれたところで、それは分からないと私は思います。

(事務局)

話の具体的な事が分からなくても、進行をどうしていこうかというのは、どんな組織でも考えていくことが出来ると思います。中身が分からないので、自分たちでは議論が出来ないので、過去に出たことがある人に出てもらうことが決まれば、そういう風にしてもらうのも1つの方法だと思います。今、私がこの話をしましたので、この議論になりました。次回、これを会議のテーブルに挙げて、皆さんから提案いただいていることを1つずつ整理して具体的な話に入っていけたらと思います。その1回目を次の会議で検討しても良いかという問いかけとと思ってください。

(委員)

出席するのは新しいメンバーだけで良いですか。今から日程調整しても5月以降になるので、全く分からない状態になってしまうと思います。それで良ければ調整をします。

(委員)

この議題はここで出たので、今、出てくださっているメンバーで良いのではないですか。

新しい役の人と相談されて、どういう風に持っていくのが、新しい方も関わりやすいかという意見を持ってきていただいて、検討するという方が時間はかかるかもしれませんが、一番納得していただけるとと思います。地域の間が考える、ことの運びのスピードや細やかさと、PTAの方が感じられるスピードや細やかさと、肌感覚が違います。私たちはこれくらいで良いと思っても、PTAの方はもっと細やかに繊細に決めていきたいと思われるので、そのあたりは寄り添う形でしていきたいと思っています。

(座長)

ここに書いてある地域代表は先日、話をして、そのまま役職として引き継ぎますので、あまり変わらないと思います。ただ、PTAは変わられてしまうので、そこを担保して、考えてもらわないといけないと思います。

(委員)

PTAからの意見が発言しやすい環境を作っていないといけないと思います。新しい方はこういうメンバーの中で発言が中々出来ないの、まずは次もこのメンバーで行い、新しいスタートを切るメンバーの構成等を決めていけたら良いと思います。

(座長)

PTAの方が一番重要だと思います。次回の会議はこのメンバーでということによろしいですか。

(委員)

私は卒業するので、どんな形にせよ出ることは出来ません。新しい方のサポートとして、旧の役員も出てくださいということであれば、やりやすいように引き継いでいかないといけないので、一緒に出ることは可能です。私たちがそれをして良いのか判断に迷うので、こちらでPTAのやりやすいようにということで、OBの方にも出てもらったらと言ってもらえたら、私たちも安心して出ていいということで、出ることは可能だと思います。勝手に判断してこちらで決めるのは難しいと思います。

(事務局)

PTAというポジションはPTAという背景が無いと、PTAにはならないので、そこはPTAで意見を聞いてもらわないと難しいと思います。

この時期に聞くと、役員も変わるので、結論が出せないことが考えられるので、新しい体制の中で考えていかないといけないと思っています。そこで新しい役員でということであれば、今言っている意見が全く通らなくなりますので、方法とすればPTAからは代表の方に来ていただいて、PTA以外ということで経験者として、保護者に限らず、いろんな組織も含めて何人かの枠を選定して、中山台地区教育環境適正化検討委員会からお願いをするという方法もあります。PTAは保護者として学校に帰って、保護者の意見集約が出来るという背景が無いと難しいと思います。

(座長)

現在のPTAとPTA経験者という構成でも良いということですか。

(事務局)

そうですね。その経験者という枠はPTAに委ねるのではなくて、検討委員会の中で別枠を設けて設置すれば良いです。

(座長)

それであれば、今ここでPTA経験者という枠を認めて、お願いすれば今のPTAメンバーは出られるということによろしいですか。

(委員)

とりあえず、今回は決定事項では無くて、そういう方向で次回の会議で決めるということでは旧の役員も参加して良いということですよ。それであれば、今年度は会議に出ていますので、サポートしないと次の方は全く分からないですからね。

(座長)

それでは、次回の会議でそういう話をするということによろしいですね。

(委員)

そういう枠を設けていただけて、経験者の中から誰か出てもらえないかという通知を出

してもらえらるなら、次年度の役員から前年度の役員に声をかけてもらえらると思ひますので、そういうのをそちら側から作ってもらえらるたらできるということですよ。

(委員)

そういうメンバーで招集を付けてくださいということですよ。

(委員)

次の話し合ひに対して、今年度のメンバーや今まで統合に関わつたことがあるメンバー、役職が付いていなくても関わつたことのある方はいらっしやいますから、その方々にも声をかけた方がよいのかとか、色々と思ふことがありますので、どこまでしたらよいのかと思ひました。

(事務局)

この中でそう決めてもらえらるたら、PTA に対してそのような依頼をします。

(座長)

皆さん、今のご意見でよろしいでしょうか。

～異議なし～

それでは、先ほどの話でいきます。

(委員)

確認になりますが、私たちの旧役員と新役員の方とここにもいない役職にもついていないOB かもしれませんがよいですか。

(座長)

そういう方にもお願いするということですかね。

(委員)

それではお声掛けしますけど、皆さんお忙しいので、出席できるかはわかりません。

(座長)

そこは個人の話になりますので、ここにおられる方も来年度は出来ないことがあるかもしれません。

(委員)

それでは、かなり広い範囲でお声掛けすることになりますけど、人数的に今回は4人でしたが、次回に関しては4人でなくても構わないという認識でよろしいですか。

(委員)

それは経験のある方がということですか。新しいPTA の方には声かけられます。それ以外に何名くらいが相応しいということですよ。

(委員)

それによつても声をかける範囲が変わってきます。来れそうな方に声をかける等、考えないといけません。新しい役員の方が4名と現在役員をしている4名はできるだけ参加できるように声をかけようと思ひます。8名くらいになりますかね。

(委員)

そうですね。皆さんの日程が合うわけでは無いですからね。

(委員)

それでは、それくらいの規模で声をかけさせていただきます。

(委員)

学校側からの希望だけ伝えさせていただきたいと思います。教員は統合する事を聞いていなかったで、混乱もあり、とても大変な中で統合が進んできました。長い混乱が無いように今回の統合の流れを活かして、教員も PTA も地域の方も気持ちよく取り組むことが出来て、中山台地域を素敵なおところにしていただければと思います。連絡や周知の方法等で大混乱を起こしていたので、皆さんが気持ちよく良い方向に向かえるように進めていただけたらと思います。次は小学校と中学校のこととなれば、教員の配置の事もあるので、とても大変だと思います。皆さんも色々な事を考えていかないといけないですし、教育委員会も大変だとは思いますが、どこが統括する責任者は誰になるのか、どういう連携をしていくのか等、体制をしっかり作ってもらって進めていただけたらと思います。

(座長)

他に何かございませんか。

(委員)

先ほど、小学校の方は PTA の話がありましたが、小中一貫教育のこともあるので、中学校の方はどうされますか。

(委員)

中学校も同じになるかと思います。

(委員)

小学校から上がっているので、知っているメンバーはいます。

(委員)

今の話でいくと、現在の会長と副会長、次年度の会長と副会長が出席ということですよ。

(委員)

そうですね。ただ、継続してここに来られるメンバーになると、中学校で組織体制を作るのは難しいと思います。中学校は3年間なので人数も少ないですし、皆さんも高校や大学に進学されるお子さんを抱えているので、お仕事をされている方も多く、休みが取れない問題や、新しい組織を作ったところで、どこまで参加できるかという難しさが出てくるかもしれません。

(委員)

小学校のメンバーになっていた方が中学校に上がられているかもしれないので、そういう方とも連携を取りながら、中学校が置いていかれることがないよう、メンバー構成が出来たら良いなと思います。それこそ、PTA 同士で連携を取ったりすることはできませんか。

(委員)

連携を取ることは可能だと思います。ただ、やり方が違うので、小学校の統合よりも大変

になると思います。会議に出ることが出来る人がやれる事をやらないと、毎回同じメンバーが出席できるかも分からないですし、中学校も組織や取組としてやった事が無いので、大変だと思います。

(委員)

最初にそういう事があるという事で、そういった問題も含めてテーブルに乗せていかないといけないと思います。

(委員)

市に対して1つお願いしたいことがありまして、運営委員会に来ていただいて、説明をしていただけたらと思います。日程も決まっていますのでお願いしたいです。また、中学校にも説明をお願いしたいと思います。それをお便りに掲載してもらって出すことが出来たらと思うので、同じ文面を作っていただけたら、全員は読まなくても少しずつ広がっていくと思いますので、出来る限りの事をやれたらと思います。

(委員)

情報発信も前回は後手になっていることがあるので、なるべく後手にならないように準備をお願いします。

(委員)

小中一貫教育について、協議では無いですけど、色々な話し合いをしていく事はPTAの方に言ってもよろしいですか。

(事務局)

1年に1回しか会議をして来なかったものを来年度の早い時期に会議を開催しようと思うと、テーマにも拳がってきていなかったものを突然の通知で小中一貫教育になることで誤解があってはいけませんので、今回はテーマに書かずに口頭で説明をして、次回の会議から少しずつ検討していきましょうということです。

今後はこのような議題を検討していくことを色々な機関に働きかけて行きたいと思います。今日は頭出しをただけになりますので、具体的にどうしていくかということも含めて、次回以降は色々な角度から、議論いただいた方が良いのかなと思います。今日、新旧役員や役員経験者も入った方が良いという話もありましたので、PTAにはお伝えして、次の委員会に出席いただけたらと思います。

(委員)

今までは中学校は小学校の話なので、第三者的な立ち位置で小学校の統合についてはいらっしゃいました。今後、進めていく際のスタート地点であまり積極的に関わる気持ちが無いままにスタートすると、もっと早くに教えて欲しかったとなるといけないので、その辺はきっちりしていかないといけないと思います。

(事務局)

中学校の方にも行かせてもらいます。

(委員)

この会議の主たる目的は何ですか。これは宝塚市と地域代表と学校関係者とPTAの4者懇談会になりますか。それとも、宝塚市からあるビジョンを出して、それに対して検討する諮問機関ですか。その位置付けを教えてください。

(事務局)

地域の意見や考え方をしっかりと聞いていこうというために組織された会になります。

地域の学校の事は地域で考えていく。意見書をいただいて、それに基づいて、教育委員会が計画を立てていくということになります。決定するのは教育委員会になりますが、考え方の元となるのは、地域の方の意見です。その意見をまとめるための会議になります。

継続している事は、子ども達が少なくなってきた、教育環境をどうにかしていかないといけないということから発展していき、小中一貫教育についても検討していかないといけないというのも意見書の附帯意見にもありましたので、統合の目安が付いてきた中で、次のステージに議論を移していくための下準備を今後していきたいということで、継続的な協議をしています。なので、地域としての意見をまとめる会ということになりますので、諮問に近いかなと思います。

(委員)

ここでリクエストを出しても意味が無いものなのか。諮問機関であれば、ある程度意見を集約したものを各組織から出すことが求められているのか、そういうのははっきりさせた方が活動しやすいのではないかと思います。グループや組織の意見を集約して、ここで話をするということであれば、それなりに意味があると思います。

(委員)

今の質問から言えば、長尾幼稚園の通園手段について、適正化検討委員会の要望として、市に対して出したものが予算措置をしてくださり、5年間のスパンで通園手段の後押しをしてくださっています。何でも要求が通るわけではありませんが、最大限こちらの要求を呑んでいただけるような努力はしてくださっています。ただ、限界があるので、PTAの方が言われていた通り、校舎の改築にもっとお金をかけて欲しかったという意見もありますが、長尾幼稚園の通園手段について、すごく画期的な市からの後押しだと思いますので、この会議の皆さんのご意見が出来る限り反映してもらえるようにしっかりとした会議にまとめていく必要があると思っています。

(委員)

議事録について、前回の会議の分はどうなっていますか。

(事務局)

議事録について、作成はしていましたが、委員確認ができていなかったです。申し訳ございませんでした。前回の議事録については前回の参加者に本日中にお送りしますので、ご確認いただけたらと思います。

(座長)

ありがとうございました。今日は非常にしっかりした意見が出たと思いますので、それを

参考によろしく申し上げます。それでは今日の議事は全て終わりましたので、事務局に返させていただきます。

(事務局)

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。これで中山台地区教育環境適正化検討委員会を終了します。ありがとうございました。